

第2回 高輪築堤跡整備基本計画策定委員会

議事要旨

I 開催概要

日 時 : 2024 (令和 6) 年 1 月 19 日 (金曜日) 15 時 00 分～17 時 00 分
場 所 : JR 東日本 会議室
出席者 : 以下の通り

表 出・欠席者一覧 (※印はオンライン出席)

委員長	・中井 検裕 氏 (東京工業大学 名誉教授)
副委員長	・鈴木 淳 氏 (東京大学大学院 人文社会系研究科・文学部 教授)
委 員	※オ 内田 まほろ氏 (一般財団法人 JR 東日本文化創造財団 TAKANAWA GATEWAY CITY 文化創造棟準備室 室長) ・小野田 滋 氏 (公益財団法人鉄道総合技術研究所 アドバイザー) ・高妻 洋成 氏 (独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター センター長 奈良文化財研究所 参与) ※オ 古関 潤一 氏 (ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー) ※オ 矢ヶ崎 紀子氏 (東京女子大学 現代教養学部 教授)
オブザーバー	※文化庁文化財第二課 【欠】文化庁文化資源活用課 東京都 教育庁 地域教育支援部 港区教育委員会事務局 教育推進部 港区街づくり支援部 ※公益財団法人東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ※独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 基盤統括部 【欠】JR 東日本コンサルタンツ株式会社 品川駅北周辺地区市街地再開発準備組合 ※東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 ※東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
事務局	東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部
サポート	パシフィックコンサルタンツ株式会社

II 次第

- (1) 開会
- (2) 前回議事録確認
- (3) 議題内容と策定スケジュール
- (4) 整備基本計画 第1章～第5章について
- (5) 第6章 整備基本計画

III 議事要旨

1 開会

2 前回議事録確認

3 議題内容と策定スケジュール

- ランドスケープについては 2024 年度から工事が始まるため先に議論を進めるが、順次工事が展開されていく。第七橋梁部と公園部は、工事自体は 2025 年度末から予定されているが、これらは整備基本計画の中である程度方向を定めることとなる。(委員)

4 整備基本計画 第1章～第5章について

5 第6章 整備基本計画

(1) 史跡の現状と史跡整備検討に向けて（第七橋梁部・公園部）

- 本日の資料は、区画道路 2 号の歩専道化が実現した場合の検討内容であり、仮定の下で作成されたものであることを理解いただきたい。(委員)

【区画道路 2 号の協議状況について】

- 区画道路 2 号については一部歩行者専用道路化に向けて隣接する泉岳寺駅地区第二種市街地再開発事業の施工者である東京都と私道化に伴う通行権の確保に関する協議を進めている。(事務局)
- 区画道路 2 号の方針はいつ決定する見込みか。(委員)
 - ← 整備基本計画の第七橋梁部の整備方針については今年度中に定めることを目標としているため、事務局としては、年度内に協議が整うよう進めていきたい。(事務局)
 - 本委員会としては、当初の計画通り進めてもらうことを希望する。(委員)

【地下水の水位・水質の制御について】

- 事務局案のとおりで異論ない。多少の水位上昇は自然の状況としてあり得ることであり、オーバーフロー排水は一時的な水位上昇を許容する案がよい。水質は、現在の状況からそれほど塩の析出を心配する必要はないが将来的に塩類が濃縮し析出する可能性を考慮しておく必要がある。対策としては、水がかからない状態を生じさせないことが重要である。藻類については、環境に配慮した紫外線処理が水質管理上も有効と扱われるため、合理的である。(委員)

【視点場について】

- 第七橋梁部ゾーン（仮称）の視点場は北側のみで、南側には設定しないのか。(委員)
 - ← 高輪ゲートウェイ駅側からの動線を考慮しても、南側からの視点は重要である。1 階レベルに第七橋梁部を取り囲む形で視点場を設けるほか、2 階レベルではデッキから様々な方向で眺めることができる。(事務局)
- 基本的によい計画であり、第七橋梁部は他街区からアクセスしにくいいため、両側に周れることが重要だと思う。区画道路 2 号の歩専道化の協議状況にもよるが、実現すれば、第七橋梁部を見下ろせる魅力的な視点場となる。(委員)

- 再現整備の考え方は基本的によいが、視点場の設計は大切である一方、築堤は「まちの裏側」にある。駅からアクセスする人をどのように誘うのか、動線やサインなどの計画を議論に含めたほうがよいのではないか。(委員)

← 今後、展示・サイン計画とあわせて検討する。(事務局)

【史跡の理解を高めるために必要な整備について】

- 水路部について、石敷きが半分しか残っていないことが気になるため敷石を補填することも検討してもよいのではないか。(委員)
- 群杭上の黒色砂利層を復元するにあたり、全てを覆うと石積みの下 3 段分が埋まってしまうことになる。覆うのは一部とすることで、築堤らしさを表現できるのではないか。(オブザーバー)

← 検討する。(事務局)

← 私の提案は、群杭全体は粘土質で埋め、その上に砂利を敷いて保存するというものである。もし杭を見せるように再現するのであれば、宇治川太閤堤跡など違和感なくレプリカで再現されているものがある。(委員)

- 概ね事務局案に賛同する。サインで遺構と再現部の違いを明示する案は、来訪者に望まれるものである。視覚的に識別できる視点場が限られるという懸念点に対しては、案内や情報提供を工夫することでクリアできる。(委員)
- 築石の再現整備について、築堤は規則正しく積まれているため、再現部分についても規則正しく再現すると考えて良いか。(委員)

← 認識のとおりである。(事務局)

- レールの位置や橋台の親柱の位置について、明治 5 年を再現するにあたり何を根拠としたのか。(オブザーバー)

← レールの位置については検証中であり、改めて提示する。親柱については遺構より推定した。(事務局)

- 笠石について、「明治末期 築堤場を走る機関車」の写真が示されているが、明治 32 年以降の 3 線化時の写真である。明治 5 年の再現に何を根拠としたのか。(オブザーバー)

← 単線時の資料等、改めて検証を進める。(事務局)

- 「笠石と想定される発掘された石：凝灰岩」と示されている写真について、笠石：安山岩の誤りではないか。凝灰岩は柔らかく、笠石に使えるような材質ではないため、検討し直してもらいたい。(オブザーバー)

→ 笠石は雨よけ石であり、ぶつかっただけのものを受け止める役割を持つため硬い石を使うことが多い。安山岩は凝灰岩より強度が高いが場所によっては石質が異なることも多いので引き続き検討が必要である。(委員)

【第七橋梁の再現整備について】

- ストラットと縦桁を兼ねる構成や木調仕上げについて、いくら奇麗に塗装で仕上げて木には見えないので、鋼材ではなく木材を使ってほしい。擬木では見た目の柔らかさや質感が変わる。(委員)

→ 「木調」ではなく「木製」の仕上げとすれば、耐震性等の確保の観点からも賛成である。(委員)

- ← 東京都内の史跡・名勝のうち、木の橋梁では、通行上の安全性や構造上、鉄骨等を使用していることが多く、木部は早ければ 10 年程度で老朽化が進んでくる。劣化やメンテナンス周期、構造の分離等を考慮に入れ、検討すると良い。(オブザーバー)

← 考え方を整理した上で、今後検討する。(事務局)

- 第七橋梁には人が立ち入らないことが前提か。(委員)

← 人は入らない。(事務局)

- 史跡の中で復元を検討する場合は、文化庁内の会議でも議論することとなっているため、その旨理解いただきたい。(オブザーバー)

【公園部の再現整備について】

- 単線、複線、3線のいずれを再現するかは、第七橋梁部・公園部における展示の目的・コンセプトと合わせて議論してはどうか。(委員)

- 公園部が一番広く高輪築堤を見ることができ、3線化の跡が残っている場所である。各視点場で何を見せるのか、何がポイントなのかを整理すると議論が進むのではないか。(オブザーバー)

- 旧京浜東北線「基礎」とあるが、「橋脚」ではないか。(委員)

← 歴史の重層性を表現するという観点から、3線化以降、京浜東北線が走っていた事実が大切と考えている。表現については検討を深めたい。(オブザーバー)

- 公園部の再現整備については判断するには至っていない面がある。次回委員会に向け、検討の深度化を図ること。(委員)

【その他】

- 整備基本計画の検討が落ちついた段階で、あまり興味がなかった方々からも関心を集められるような活動(ホームページを立ち上げる、ボランティア組織をつくる、クラウドファンディングを募るなど)をしてはどうか。(委員)

(2) ランドスケープについて

- 通常、レールの天端は丸くなるが、路盤材との間に隙間はできるのか。(委員)

← バリアフリーの観点から、隙間をなくし、平らにしたい。(事務局)

→ 概ねこの方向で進めるということではよいが、現場や路盤材のサンプルを見る機会等はあるか。(委員)

← レール間はバラストを表現できるよう、少し荒らした表層としたい。実施設計が進んでおり、素材の選定も進めている。現場や路盤材のサンプルは準備して委員長にご覧いただけるようにする。(事務局)

要旨以上